

な

ご

や

V

I

S

I

O

展

N

メディアパーク

デザインセンタービル

4F デザインギャラリー

6.25 thu 7 28 sun

11:00 20:00
(最終日は18:00まで)

名古屋学
芸大学
デザイン
学科



NUAS
名古屋学芸大学
NAGOYA UNIVERSITY OF ARTS AND SCIENCES

「なごや」について振り返ってみますと、古くは平安時代の荘園名に「尾張国那古野」と表記された記録があり、やがてこの地が織田信長、豊臣秀吉の時代になって天下取りの表舞台になると、茶の湯や異国情緒の影響を受けた様々な文化が生まれ、飛躍的に国が栄えました。そして、徳川家康が1612年名古屋城の天守を完成させ、清洲から現在の地に7年もの歳月をかけて街ごとの引っ越しを行ない、巨大な城下町を開き、江戸時代には御三家の大藩として繁栄を続け、「名護屋」と「名古屋」の名称が併用されました。

明治時代になって廃藩置県が施行されると、尾張国の「名古屋県」「犬山県」と、三河国の10の県が統合され、1872年に「愛知県」が誕生。繊維産業や重工業を中心に発展し、1889年には市名として「名古屋市」、村名として「愛知郡那古野村」と定められ、後の1902年に「那古野村」は名古屋市の一部「那古野町」として組み込まれました。その後、昭和の第二次世界大戦で焼け野原になった名古屋でしたが、鉄鋼業や自動車産業などの急成長により、戦後の復興を迅速かつダイナミックに進めたことも特徴的でした。1958年の東京タワーよりも前の1954年に名古屋テレビ塔は完成し、いち早くテレビの時代に適応していきました。

こうした活発な歴史を背景にして、現代の人々が会話の中で使う「東京・大阪・名古屋」というフレーズの「なごや」という言葉は、一都市の名称としてではなく、日本経済の三大中心地のひとつであるという意味での尾張一帯を表す言葉としてずっと使われ続けて来たのです。

しかしながら、このようなドラマチックな歴史と豊かな経済と文化が育まれてきたはずの「なごや」の存在感や魅力が今、小さくなっていると感じざるを得ません。情報過多の現代社会の中で、なごやからの情報発信の量が減り、内容もひと昔のままで更新されずに鮮度を失い、他の地方の発信と比べて相対的に目立ちにくくなっているのではないのでしょうか。

そこで今回、名古屋学芸大学デザイン学科の学生たちに、「尾張一帯とその周辺＝なごや」の産業・観光・文化の視点から価値を掘り起こし、見つめ直して、「これからの NAGOYA＝なごや VISION」としてデザイン提案する課題に取り組んでもらいました。本展はその成果を発表するものです。昨年の2014年にビジュアルコミュニケーションデザインから「みやげもの」を通じて価値を見つめ直し、新しく提案した「NAGOYAみやげ VISION展」を開催してご好評をいただきましたが、今回はさらに広げて、スペースデザインとプロダクトデザインのアプローチからも「なごや VISION」のデザイン提案に取り組んでいます。

ぜひご覧いただき、ご感想をお寄せください。よろしくお願いいたします。

名古屋学芸大学 メディア造形学部 デザイン学科教員一同



[会期]

6月25日(木) - 6月28日(日)

11:00-20:00(入場無料)

※最終日18:00まで

[オープニングパーティー]

6月25日(木) 18:30 - 20:00

場所: 4F デザインギャラリー

[会場]

〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄 3-18-1

ナディアパーク・デザインセンタービル 4F

[主催]

名古屋学芸大学 メディア造形学部 デザイン学科

[後援]

株式会社国際デザインセンター

ユネスコ・デザイン都市なごや 連携事業

[お問い合わせ]

〒470-0196 愛知県日進市岩崎町竹ノ山57

名古屋学芸大学 メディア造形学部 デザイン学科

tel&fax : 0561-75-2803

e-mail : design.dept_ml@nuas.ac.jp

URL : <http://gplus.to/nuasdesign>

[アクセス]

地下鉄東山線、名城線「栄」サカエチカ7番出口徒歩7分

地下鉄名城線「矢場町」6番出口徒歩5分

有料地下駐車場有

詳しくはこちらをご覧ください。

URL : www.idcn.jp